

## 1. はじめに

私は6月に渡米し、ロチェスター工科大学(Rochester Institute of Technology)での交換留学生としての生活がスタートし、4ヶ月が過ぎました。私は現在、RIT内にある英語学校 ELC(English Language Center)で勉強しています。授業も生活も全てが英語で全く聞き取れず苦勞することが多々ありますが、毎日充実して過ごしていて月日の流れの速さに驚いています。

## 2. English Language Center

ELCでは様々な国の学生が英語を勉強しています。そこで、Placement Test と呼ばれる英語能力試験を受けた結果、夏学期は Intermediate class に振り分けられました。夏学期に受講した授業は以下の通りです。

- Intermediate Writing & Reading
- Intermediate Lang Analysis & Acc
- Intermediate Speaking & Listening

Writing & Reading のクラスは、エッセイの読解や書き方について勉強します。教科書は無く配布されたエッセイを読み、主題や構成についてディスカッション形式で考えていきます。エッセイのトピックは難しいものはありませんでしたが、考えさせることが多かったです。頭の中で考えても、それを英語で伝える能力が全然なくて全く話せなく、情けない思いをしました。またエッセイの読解と付随して、そのトピックについて自分の意見をエッセイにします。このエッセイは自分の出身国と米国との違いや自身の経験を基に書くことが多く、一度に全て通して書き上げるのではなく、初めに構成を考え、先生とディスカッションし添削してもらいます。その後、パラグラフごとに構成を考えてから書き始め、文章を書き終えてから添削、ディスカッションする流れになり、とても丁寧です。よって毎週エッセイを書いていました。添削は、文法や単語のミスの修正よりも自分の意見をもう少し例を挙げて詳しく書くように言われることが多く、自分では例を挙げて説明しているように見えて説明が足りていないと実感しました。

Lang Analysis & Acc のクラスでは文法について勉強します。中学や高校で学んだことのある内容なのですが、どこか初めて習ったような感覚がして新鮮でした。この授業は文の構造を学び、その構造を用いて自分で例文を作ることが多かったです。さらに、YouTube の短い動画を見てその事象について習った文法を用いて説明したり、スライドで写真を出して短い文章を作って話したり、今までに経験したことが無かった授業スタイルで面白かったです。しかし、瞬間、瞬間に短い文章を作ることが苦手な私にはとても大変な授業でした。また Writing & Reading のクラスと同様にテストではエッセイを書きます。テーマは様々ありましたが、必ず授業で扱った文法や構造を使用することを指定されます。時間は多く取ってもらえるのですがエッセイの構造を考え、指定された文法を使用して説明するのに苦勞しました。しかし、とてもフレンドリーな先生なので分からないことがあれば授業後に何度も教えてくれました。Speaking & Listening のクラスではプレゼンテーション、ディスカッション、CD を使ってリスニングや発音の練習をします。授業スタイルは日本と同じような感じでグループを組んで発音の練習やディスカッションをします。プレゼンテーションは一人で行い、ビデオカメラで録画され Lang Analysis & Acc の評価対象にもなります。後日、評価用紙をもらいどのような所が良かったのか、どこを改善した方が良いのかをフィードバックすることができます。

夏学期の3科目を通して、全てを理解するまでには至っていませんが、大まかに理解することでできるようになり、少しはリスニングがついてきたのかなと思います。プレゼンテーションは自国の事について話す事が多く、渡米前に行った事前研修でのプレゼンテーションやディスカッションが

とても役に立っています。しかし、まだまだ文法は無茶苦茶であるのと、ボキャブラリーが少ないことで意味が分からず、理解できていないことが多々あります。また、自分の意志を伝えたいことが頭の中にはあるが、言葉が出てこなくて発言できないことがあり、悔しい気持ちと今までの英語に対する勉強姿勢に反省しなければならないと感じました。

秋学期は一つ上のクラスに上がり、**High intermediate class** に振り分けられました。夏学期の成績次第ではもう一つ上のクラスに上がることも可能ですが、私は夏学期の成績は平均であったので、上がることはできませんでした。**High intermediate class** は夏学期で受講した3科目と新たに**Inquiry-based Lang Tasks** の授業があります。この授業は3科目の授業をより実践的に行う授業です。現在、ブログの構成や書き方、コメントの書き方について勉強し、実際に自分たちでブログを開設し記事を書いています。他の3科目は夏学期と同様な授業スタイルですが、授業の内容はよりアカデミックな内容となり、文章を書くのも論文みたいに論理的になっています。また、リスニングも会話も話すスピードが速くて全く聞き取れず、理解できてない中で直ぐにディスカッションするので授業に追い付くのに必死で理解するのに時間が掛かる上に毎日どの授業も課題が出されるので、毎日が忙しく、終わる頃には日が沈んでいます。

### 3. クラブ活動

秋学期から2つのクラブ活動に参加しています。1つは**Japanese Culture Association** です。**Japanese Culture Association** は日本の文化や留学に興味ある学生が集まって様々な分野についてプレゼンテーションを行い、日本のお菓子を食べながら雑談しています。参加者の学生の中には実際に日本に観光しに行った人、**KIT** のプログラムに参加したことがある人など日本に興味を持っている学生が多いです。また、週に1回行われる**Japanese Conversation Table** はライブラリーセンタ内にある喫茶店で日本に興味が集まり交流します。ここでの会話は基本、日本語ですが私は英語で話し、相手は日本語で話して交流しています。アニメの影響などで日本に興味を持っている人が多く、話の大半はアニメの話です。また、日本のゲームをやっている人が多く驚きました。

もう1つは剣道部です。私は小学校から高校生まで剣道をやっていました。**RIT** には剣道部は無いと思っていましたが、部活を調べていた時に見つけたので入りました。部員はそこまで多くはありませんが、剣道が大好きな人たちが集まっています。剣道の礼儀作法や竹刀の握り方など教え方は全て英語ですが、剣道の用語や掛け声は日本語で、特に先生の事を”**Teacher**”ではなく”**Sensei**”であったことには驚きました。また、どの学生も礼儀作法がしっかりしていたのでとても感心しました。

### 4. 終わりに

最初の2ヶ月は日本との違いに慣れるまで苦労しましたが、現地の学生や先生方のサポートがあり助けられました。現地に着いてすぐ、ネイティブの英語はスピードが速く、何を話しているのか全く分かりませんでした。しかし生活していくうちに慣れてきて、ある程度理解できるようになりました。また少しずつ相手に思いが伝わるようになってきて、少しは英語力が向上したのかなと思います。

毎日が密度濃く、1日が早く終わってしまい、もう4ヶ月経ってしまったと思うと惜しい気持ちがあると同時にこの先の時間もさらに充実した日々を送れるように積極的に行動し交流しつつ、もっと勉学を励みたいと思います。

以上で9月の報告とします。